

令和2年度第1回南牧村総合教育会議 議事録

日時 令和3年2月25日(木) 午前9時50分開会

場所 中央公民館2階学習室

議事内容

- 1 開 会
- 2 村長あいさつ
- 3 議 事
 - ① コロナ禍における学校教育について
 - ② そ の他
- 4 閉 会

会議出席委員

(村長) 大村 公之助 (教育長) 高見澤 岡治 (教育長職務代理者) 高見澤 一男
(委員) 高見澤 ふみ子 (委員) 高見澤 みち子 (委員) 吉澤 富久子

事務局

(教育委員会教育次長) 津金 昇三
(総務課長) 津金 初男 (参事) 井出 浩美 (企画係主任) 有坂 恭祐

開会 午前9時50分

◎開 会

津金初男総務課長 定刻より早いですが、皆さんお集りですので、令和2年度の第1回南牧村総合教育会議を開会します。本日は時間を変更し、繰り上げさせていただきましたが、お忙しいところご都合をつけていただきまして、ありがとうございます。本日、村長は次の予定により11時30分までとなります。それでは初めに、村長からあいさつをお願いします。

◎村長あいさつ

大村公之助村長 皆さん、おはようございます。今日は令和2年度の1回の総合教育会議ということで大変お忙しい、またコロナの中でございますけれども、皆さんにお集まりいただきまして、今後の学校の運営についてお話しをしていただくということで、たいへんご苦勞様です。一年を振り返りますと、昨年、令和元年度も2月25日に開催しております。そのあと皆さんご存じの通り、コロナウイルス感染症というのが世界あるいは日本で大変な猛威を振るって、昨年の3月には、うちの村でも住民が残念なことであ

ったわけですが、若干名のコロナ感染者が出たということで、たいへんその時には学校関係者をはじめ、村民の皆さんに多大な迷惑をかけたということで、こちらとしても対応に追われてまいりました。その後4月に入りまして、国の非常事態宣言という今までにない、我々も経験してこなかった大きな、村を挙げての国難といえますか、そういった中で教育委員会の皆さんにおかれましては、教育行政全般にわたって、非常に一年間ご苦労したのではないかと思います。また今年になりまして、コロナも終息とまでいかなくとも、現在においては感染者が少なくなって、オリンピックも開催されるのではないかとぐらいのところまで来ているということで、あまり深刻に考えず、少しは見通せるところに来ております。その間、教育委員会の皆さんにおかれましては、学校のような事業、そして教育方法といえますか、教育の在り方がガラリ変わった中で、南牧村としての教育行政、教育長はじめ教育委員の皆様にはしっかりとサポートしていただいて、現在に至っているんじゃないかと思います。また、皆さんの注目しております学校の小中の統合、あるいは南小、小学校だけの統合という話も、昨年一年前は出ておって、私もそれに対しては、誠意をもってフォローしてまいりました。昨年の教育会議のあと地元の板橋区の区議員の皆さん、あるいは村議員の皆さん私と南小の視察をしたり、あるいは中学校に来て海ノ口財産区の皆さん、村議員の皆さんと私とで、学校周辺をいろいろと今後のためということで見て回り、当時お話しした南小に小学校だけでも、激減して少人数学級、複式なんて言う話も出てまいりましたので、積極的にということに取り組む矢先に、ますますコロナの感染症が深刻になってまいりまして、小学校だけでもという話、あるいは小中一貫でということについても、一年間議論がなかったわけです。すべてコロナのせいにしてしまいますと、誠に失礼に当たるわけですが、なにせ三密を避けるというようなことから、なかなか皆さんとの協議もできなかった。やはり学校の問題になりますと、一番要は土地問題ということで、場所が決まっていれば、すぐにでも建設委員会を作っていけるわけですが、なにせ場所、土地が定まらなければ次の話に持っていけないということで、小中一貫の話については、まだまだ定まらない、時間がかかると思いますが、激減しています小学校の児童については、複式を避けるために、また新たに小学校の教育方針を新たに検討していただく場においては、南小に、あるいは北小に小学校だけでも一緒になるという話は、今後続けていただければありがたいなと思っております。それについて今日は、皆さんからいろいろなご意見があるかと思うわけですが、皆さんと共有して、話をいただければありがたいと思っています。様々な村の事業に対しても、教育長はじめ教育委員の皆様にはご協力をいただいて、村の行政とそれなりに回っております。中部横断道については、まだもう少し時間がかかるわけですが、少なくとも40年かけて1キロ帯に決定されています。なおかつここ数年おいて、環境アセスの関係から実線が入るところまで来ています。そんなに遠くない時期にルートが決まって、それぞれの設計という話も私の方には、そういった計画予定というのは来ております。ただしコロナの関係でどうな

るか不透明でありますけれども、国は国土強靱化と言っている状況、あるいは災害に対して、なんとか国を挙げて対応しなければいけない状況の中で、中部横断道については、真剣に国・県も取り組んでいただいている現状であります。先般、10年経って福島の凄まじい災害が、また最近震度6弱ですか、地震も増えていることから、国の災害対策については、真剣に道路の問題も取り組んでいるのではないかと思います。なぜ中部横断道かといいますと、村で中学校にしても小学校にしても、今後、学び舎を作る上においては非常に大きい影響力を持っておりますので、そのところは見極めをしっかりとおかないと、作る場所について、いろいろと影響してくると私は思っていますので、そういった意味でいろいろ苦勞しております。時間もそれほどないと聞いていますので、早速、教育長中心に進めていただければと思っています。本当に忙しい中、お集りいただきましてありがとうございます。

① コロナ禍における学校教育

津金課長 ありがとうございます。それでは次第に従いまして、コロナ禍における学校教育ということで教育委員会からまとめていただいた、これまでの取り組みについて説明をお願いします。

津金昇三教育次長 それでは私から学校教育と合わせて社会教育も一緒に、ご説明させていただきます。皆様のお手元の1枚の資料で、まず臨時休業について、ご覧のと通りの臨時休業がありました。4月6日に入学式を行った一週間後から、臨時休業になってまいりまして、その間、学校の先生達が家庭訪問に行ったり、各地区の公民館を使って子どもたちに出した課題の進捗状況を把握したりの対応を行いました。休業中の子供たちは、心身ともにいろんな不安を抱えている状況があったようです。たまたま中央公民館の駐車場でも確認の場所として使っていましたが、久しぶりに先生の顔を見たり、友達の顔を見た子供たちは、笑顔でうれしそうな様子でした。5月7日から県内に先駆けて学校を開校いたしました。当初、午前だけの短縮授業で、様子を見ながら始めたわけですが、その後、通常授業に戻しました。これにつきましては、三校校長会の中で、少しでも授業を進めておきたいという要望もあり、南牧は児童生徒数が少ないということもあり、小規模校の特色を生かして県下に先駆けて開校しました。その際には、村から保健師を派遣していただいたり、コンテナを設置していただいたり、子供たちが安全安心に授業に入っていけるような体制を整えていただきました。それについては非常に助かりまして、感謝するところでございます。これについては、マスコミ各社から随分取材もありました。テレビカメラが入ることはご遠慮いただいたのですが、新聞報道やテレビについては対応してまいりました。今まだこんな状況なのに開校するのかといった、批判的な取材が来るのかと心配したわけですが、全く逆でして、マスコミからは大変好意的な印象を持っていたと思います。手前味噌ですが、よく英断しましたねというような受け止め方をされたと思っています。

もし学校で感染者が出たり、あるいはクラスターが出たりということも、正直心配もございましたけれども、学校でしっかり対策をとっていただいたり、各家庭でも気を付けていただいたこともありまして、感染者が出ることもなく、これまで授業を進めていくことができました。早めに授業を始めた関係で、夏休みは中学校は予定通りに入れた。小学校については、この先どうなるかわからないということで、少し夏休みを短縮して授業を行ってまいりました。修学旅行は、表現悪いですが、随分すったもんだがありました。北小は、東京へ行く予定を山梨静岡方面に変更しまして、ご覧のとおりの日程で実施しました。南小は、東京方面から新潟方面に変更し、1泊2日で実施しています。中学校は、2度の変更を経て、10月9日に日帰り研修で、富士急ハイランドに行ってみりました。当初、京都・奈良だったものを、長野県内に計画を移して予約して9月1日から3日間、計画を立てたわけですが、第2波の影響が残っていて、これも延期をしまして10月9日に実施したところでございます。これについては、学校側と保護者側、教育委員会の間で温度差がございまして、学校とすれば、これで修学旅行は実施済みという思いですが、保護者の多くは、これは修学旅行と言えないんじゃないかという思いを持たれている方の声を、随分と聞きました。再三に中学校と教育委員会事務局とで話し合いの場を持って、改めて修学旅行実施の方向で検討したわけですが、なかなか叶わず、中学校としては修学旅行は終わったものと、平行線を保ったままでした。そこで、3年生はカナダ研修も無くなっているし、1年間予定していた色々な行事も中止になって、我慢した一年だったことも踏まえまして、教育委員会では村の事業として、思い出旅行、卒業研修旅行という3月13、14日で北陸方面へ行ってくる予定であります。次の植樹祭、佐久大会、南佐久音楽会等は、すべて中止となっています。校内音楽会は、両小学校は6月に行う予定を、北小は10月14日、南小は11月13日に変更して、なおかつ時間を短縮して実施しました。中学校では、東信大会、東信吹奏楽コンクール、八ヶ岳登山、全て中止となりました。小学校の緑の少年団交流集会も中止、中学校のカナダ研修も中止となりました。これについては4月の段階で、パスポートを申請しなければいけない段階で早めに中止を決定しました。カナダは一切入国を受け付けないという状況でしたので、パスポートを取る前に、早めに中止を決定しました。次に、小学校のキャンプ、7月の予定を8月に変更しました。北小は、藤沢市野外体験教室から白駒の池に、南小は、藤沢市の野外体験教室で行いました。例年ですと、両小が一緒にキャンプをすることで、子供たちの交流を図る貴重な場面と捉えていたわけですが、人数が多くなり密になってしまうことから、別々の場所で行いました。運動会では、内容を変更したり時間を短縮したり、招待者を無くして、工夫しながら行いました。中学校の南牧祭は、来賓招待を行わずに実施しました。スキー教室も時間短縮をし、密を避ける工夫をしながら行いました。卒業式は、両小学校は3月17日、中学校は3月18日に行う予定です。昨年度は、校長室で一人一人卒業証書をもらいましたが、今年

は時間を短縮するなり、来賓の数を制限するなりの工夫をして行いたいと考えています。続いて社会教育ですが、ご覧のようにコロナ対策を講じて、実施できるものは実施しました。細かい説明は省略いたします。強歩大会、敬老会は役員会で検討し中止しました。敬老のお祝い品は、金額を上乗せして配布しました。成人式は、1月2日に、会場を体育館に変更し、恩師の先生の招待もご遠慮いただき、健康チェックをしっかりとって開催しました。その際には村から成人者全員に、PCR検査キットを配布しました。強制はできませんでしたが、安心して参加してほしいとの思いからお配りしました。会場を中学校体育館に変更しましたが、新成人の皆さんからは、思い出の校舎でよかったとの声を何件もいただいております。文化スポーツ教室の閉級式は行わず、創作活動を行う教室は、3月16日から美術民俗資料館で、習作発表会を行います。期間は1週間短縮して行います。学校教育、社会教育について説明させていただきました。なお、補助事業で各学校へマスク、消毒液など、感染防止策としての購入に100万円、加湿器の購入に合わせて300万円、最終的に1校あたり100万円確保しています。給食費は、村長の英断により6月から無料になりました。これに係る予算は1,180万円であります。各校にはコロナ対策として、トータルして約1500万円の経費を掛けています。もともとギガスクール構想を進めていますが、電子黒板の導入とかも進めています。以上です。

高見澤岡治教育長 まず、今日は忙しい中、皆さんには貴重な時間をお借りしまして、ありがとうございます。今、津金次長からコロナ対策について学校教育、社会教育で実施してきた事柄について説明がありました。私はそれに補足の意味で、現状取り組んでいること、それに来年度に向けてどのような形でコロナ対策をしていくかということをお報告させていただきます。教育委員会では、ほぼ毎月定例会、教育委員の皆さんに中央公民館に集まっていただきまして開催しました。先ほど次長から報告もありましたが、卒業記念旅行、3月13・14日に、村の理解をいただきまして予算をつけていただいて、実施することになりました。今日現在25人のうち23名から回答いただきました。そのうち3名が欠席、20名が参加するという返事をもらっております。これから具体的な行程等を詰めて、無事に行ってこれるように、思い出に残るような旅行にしていきたいと思います。卒業式は、去年は一人一人が時間差で学校に来ていただいて、卒業証書の授与という形を取りましたが、少し緩めまして、在校生も参加して挙行したいと思います。その中で、来賓は村長、副村長、議員8名の方、民生委員の中の主任児童委員の方と考えています。入学式も同じ形で挙行したいと思いますし、来賓も同じメンバーでやりたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。学校の関係では、児童数の減少に伴う複式学級が、本来、国の規定では、2つの学年で16名以下になれば複式学級をせざるを得ないという規定があります。北小の2・3年生、南小の2・3年生が16名以下になります。県教委に要望をして、両校とも加配ということで先生が余計に配属になるということで、単級での今まで通りの形態が維持できることになりました。あり

がとうございます。それから特別支援学級について、南小では対象者が複数いたんですが、来年は1名になり不安定学級になるということでしたが、それにつきましても本来なら先生も配置されないですが、加配をしていただけるということになりまして、専属で配置することになりました。村費講師は、今年と同じように中学校は4名、北小に1名、南小に2年間いなかったのですが、1名を配置することができました。コロナ関連では、長野県内の学校では、大滝村と南牧村の小中学校が一番に臨時休業から始めましたが、予防対策がしっかりできて、先生方の責任感が高まったと聞いています。また、北小学校でコロナ禍における授業ということで取り組んだ報告と、見えてきたものということでまとめたものがあります。これは各方面で、取り組みが認められて好評を得ているようです。2ページのICT活用の充実というところでは、本校はすでにクラス分のタブレットとipadは整備されている、これをフルに活用した授業風景が3ページにあります。さらに北小の特色といたしましては、4ページの(5)日頃から地域との連携と元気の発信ということで、コミュニティスクールの活動として、地域住民との一体感を持った中での活動がうまくいっているということで、注目されているということです。まとめとしては、今年のこういった状況の中で、学校や子供から元気を発信し、社会や地域を明るくしていくことも地域や社会に開かれた学校としての大事な役割がある。改めて見えてきた本校の存在意義や役割を問い直し、今後に生かすということで5項目のテーマで始めたレポートです。マイナス面だけでなくコロナがあるからこそ進めたいこと、普段は行えなかった家庭訪問ができて、子供たちの環境を確認できた。村の新しい観光スポットとしての苔の公園を、産業建設課の協力を得ながら小学校3年生、中学校1年生が、故郷のいいところを発見できたとあります。昨年度から英語のALTの先生を、保育園へ1か月に2度派遣することができ、国際感覚が養えて、小学校1年に入ってきたときに抵抗なく接せられるということで、今後も続けて欲しいと両小学校長からありました。白人だけでなく黒い肌をした黒人も同じ仲間なんだということが養えられると思います。両小学校は、へき地の学校だと位置づけられていまして、その中でどのような特色ある学校づくりをしているかということで報告のあったものを配りました。少人数の学校でなければならないこと、小規模校だからできることということで、いろんな取り組みをやっていただいております。ぜひ熟読していただきまして、理解して盛り上げていただきたいと考えています。社会教育では、文化教室23教室で230名余りの生徒が参加していただきました。中央公民館も毎日予約で埋まっています。これについても、よかったかなと評価をしています。以上です。

津金課長 それでは教育委員の皆さんからご質問等ございましたらお願いします。

高見澤一男教育長職務代理者 卒業記念旅行に行かない理由は、何かありますか。

津金次長 今聞いているところでは、スケート、スキーの大会とぶつかってしまって、大会に出場する子供は、行かれないと聞いていました。人数は多くないですけども、そういった理由として聞いています。

高見澤教育長職務代理者 全体としてみんなが行くという雰囲気があるのでいいなと。

高見澤教育長 予想以上で、もっと少ないかなと思ったら皆行くと、びっくりしました。全中のスケート、スキー大会が中止になったことが残念だったということと、隔年実施の八ヶ岳登山が、コロナでできませんでした。

大村村長 昨日、議会と意見交換会をしたんですが、議長が、村の事業で学校関係ないんだけれども、子供たちの健康を心配して、先生を何人か頼むということ言われたんだけど、先生は手配できた。

津金次長 教育長が調整していますが、3年生の担任と副担任に打診しているところです。子供たちには、先生と一緒にいきたいという思いを持っている子もいるようです。3年生は入試が終わって、ほっとして羽を伸ばす時期です。そこで何かあっていけないので、しっかり指導できる者が一緒に行った方がいいかなと考えています。教育委員会からは、教育長と職務代理者です。村側から、誰か保健師か看護師の医療職に行ってもらいたいと考えています。女の子の言いづらいこともありますから、誰か女性に行ってもらいたいと考えています。

大村村長 カナダ研修では看護師ついて行ってるし。公民館活動の中で民俗資料館の話が出たんだけれども、民俗資料館の公社の2名の方が辞めるということで、今、村の中では非常に文化あるいは芸術だとか、民俗資料館の活動そのものが停滞というか、職員を張り付けて、いろんな価値のあるものがあるんです。その整理すらできていない。一昨年、塚本さんという小海線の写真を撮りまくった人です、非常に有名な方、たぶん鉄道ファンで知らない人はいないくらいすごい方が東京において亡くなったんです。その人が、機関車のC56の大ファン。数十年にわたって小海線を撮影した、皆さん何回か見ていると思う。その人は撮影だけでなく、いろんなグッズを趣味で集めた。あるいはいろんな想像もできないプラモデルのようなもの展示してある。建設課長に言って、亡くなった時に村に全部寄付したんです。目録がないのでよくわからないんですけど、貴重なものがものすごくあるんです。鉄道ファンにしたら、ひとつ何十万もする予想もつかないようなものあるんだけど、要するにゴミ扱いに今、交流館にある。そういったものまできれいにしたり、今まで長い歴史の中で飾ってあるものを、展示してあるものもある、倉庫に収蔵してある、いろんな絵画がものすごくある。そういったものを、このままひとまとめにしていれば、郁々はだれか持ってっちゃってわかんねとか、貴重なものかわかんね。そういったものを村の職員を張り付ける。民俗資料館そのものも内容を整理して、発信というか、お金取って見てもらう。そのところ強く言いたい。4月から教育委員会にお願いして、やっていただきたいなと思っています。あと、その他で出るかわかりませんが、学校の話については、小中一貫すぐにできなくも、小学校だけでも、これ皆さんに負担はかかると思うんですけど、私と教育長だけでできる話でございませぬし、たまたま小学校だけでは、土地もありますし建物もあります。皆さんで積極的に取り組んでいただければいいと思う。ただ築40年近くたっている。私も視察などで行っていますけれど、近代的な、びっくりする

ようなホテルと間違ふような、そういうのも含めてやはり積極的に行かなければいけない。中学校は、中部横断道の関係があつて、やはり平沢からたびたびそこまで来ると、小学校低学年の皆さん、平沢から小中一貫になった場合、あそこまで来なきゃいけない。市場坂を通らない方法があるとすれば、中部横断道。中部横断道も佐久穂から来た時、どこを通るか皆さんわかるけど、小海原とか溝の原とかあるんですね。それから先ですよ、一回下りないと、ことに下りてこない。国がどう考えるかというのが、一番考えるのは水平に勾配がなく、要するに経費も掛からないし。インターも一つ作るし、そういったときに、ここは通過地点になったら。ところがそれをさせないためには、ここにどうしてもインター作っていたい。ここは南相木と北相木と地域の、一回ここで下ろしちゃう。今度はまたここから上がるんですけど、今度急勾配になるから、なかなか技術的なものがある、上まで登れない場合はトンネルで通過することもある。だからそういう意味では、ここが非常に重要なポジション。そこがもしインターができれば、中学校だって小学校だって一貫校だって、上から中部横断道通ってくればいいわけですよ。そこがなかった場合、じゃどうするんだ、そういったものを見極めながらやっていかなきゃいけないというのが一つ。それと今、板橋にいろいろお願いしているんですけど、なかなか土地問題、長い歴史があつてまず無理だということでございます。どんなにやっぱりやっても、なかなかその地域は地域でいろんな問題があつて、村を挙げてこういう問題があつて、学校問題、前の南小に作ったようなわけにはいかない。これについても流動的でありますけれど、ここもそうですけれど、じゃあ要するに別の場所ってのも考えて行かなきゃいけないということで、頭の隅には入っている。ですから中部横断道と兼ね合いもあるんだけど、小中一貫校についても。ただし小学校については、今すぐ改築なり何かして、複式に、国の配慮や県の配慮もあつて、そうは言ってもやはり複式もあり得る。そうすると、教育委員会の皆さんにその仕事やってほしい。酷だって実際やっていただけたところないでしょうから、そういうこともやっていただけたといいなと思って。その予算については、議会と話しをして、皆さん結果の内容もあるんだけど、そういうことについては。前回は、小中一貫も含め、あるいは南小も含め、実際に地元の財産区と動いて現地を見た。コロナ無かった頃いろんな議論していただいて、いろんな方法とか考えて意見を聞いてよかったんですけど、コロナって事件が起きた。いろんな議論をして、だいぶこういう状況になってきた。時間見て様子見ながら進めていただければと。そのことについて意見を言っていたらと。

津金課長 それでは、村長言われたように、次第のその他に移りまして、今、村長言われたことについて、教育委員さんからご意見をいただければと思います。それでは職務代理者から一人ずつお願いします。

高見澤教育長職務代理者 色々配慮していただいてありがたいです。村長さんおっしゃった、小学校の統合ということですけど、五年ほど前の会議があつて、そこでは小中一貫という、小中を一つの場所であるということで提言が出ていますので、私としては、その筋で

進めていただきたいと。小学校だけ先に統合して、じゃあ中学はどうするんだとか、そこをまた作り直して一緒にするのかとか、二度手間というか費用の面でもすごく大きい無駄が出てしまう。そのあたりを考えると、まず小学校を先にやって、次に他を考えると、うのでは、とりあえず目先のことをぱっとやったというだけのことになってしまっ、教育は百年の計といいますけれど、やはり先を見た状況を、まずきちんと考えて行かないと、あの時あんなことしちゃったということがあるんじゃないかと。

大村村長 そこ今心配していただいているのが、小中一貫校が、一気にやった方がいいという話なんですけれど、この話が小中一貫をする話にしても学校教育の話にしても、いろんな議論はするんですよ、PTA交えて。私に言わせれば、話そのものがただの話で終わってる。それを見てて、やはりこれはちゃんとしたルールに則って、議会のお墨付きもいただいて、小中一貫校の検討委員会、そこまで持っていく。そこまでにいろんな反対意見があったんですけども、自分もそうだったんだけど、やはり相当真剣に議論していただいた結果がこういうことで、それについては私も責任を感じています。またそういう目的で立ち上げたわけですから、ただの議論じゃなくて議会も加わっていただいているんで、問題ない。ただ問題は、いろんな問題が出てくる中で、例えば中学校にやった場合に、平沢から小学校1年生が、市場からでも市場坂通って北小学校行くだけで、体調悪い子は学校の庭でもどしてる。そういう現状で、体調良ければいいでしょうけど、やはり低学年については2年でも3年でも市場の坂、これは板橋、野辺山、あるいは平沢まで通ってくるは来る。果たして勉強になるかなという。いい学校ばっか作ったって、子供が勉強できないようじゃどうにもならない。小中一貫校ということでやったんだけど、そういう問題が出てしまう。例えば板橋に持ってたときに、海尻と森下の皆さんが、上って吐いた時に同じ状況だと思う。広瀬も。そういうのを考えると、やはり道が整備されないと。教育長に指導してもらってるけど、中には非常に乱暴な運転をしたり、けがをしたりもある。そういった問題を絡めると、中部横断道無ければだめだなと。中部横断道と並行して学校を進めていった方が、状況が分かってくる。ただ計画に入ったとしたって、設計して10年20年かかる。そこで小中一貫を、小学校だけでもというのが先。実情を見るとそういうことかな。あるいはもう少し現状を把握して密接にやる中では、南小に北小、中学校3つあって経費の面では非常に大変だけれども、今のコロナ対策にしても、たまたま環境というかバランスという面である。去年の7月に指定されて1年経って実線が入るという話がある。どういう実線か1キロ帯を決めるときに、1キロ帯の西側、初めて八ヶ岳の西側を、3キロ帯の時もそうだった。3キロ帯の時も1キロ帯は3キロの西側ですよ。というのは畑だとか守る、十分に避けられる、上田だとか佐久穂だとかそうだけど。これが今年の7月に出るのか、秋に出るのか可能性とすればある。そういったものが見極めて、そういった話を皆さんしていただければ、それすら10年かかる。その10年間どうするかということだと思う。それはまた皆さんの。5年前や3年前に、今度は学校の建設に向けて、ちょうど開通するときというような方法ができる。そんなことで、別にそれを中止したわけでもな

いし、小中一貫校を白紙に戻したわけでもない。まあそういうことで。

津金課長 では富久子さん。

吉澤富久子委員 毎年毎年、三校の整備にお金かかっているようなんですけれども、村長さんのお話を聞くと、色々な大変な問題がいっぱいあるようですので、三校一緒というのがいいんですけれど、難しくて大変だなあと思うんです。こういう問題がなるべく早く解決していただけたらありがたいと思います。

大村村長 いずれにしても子供たちもどんどん激減していくので、三校避けて通れない問題だと思う。そうかといって、小海行きますよ、川上行きますよとなります。なると困る。小海からうちの方へ来ますよ、川上から来るんならいいんですけれど。そこまで深刻な状況がありますので、中部横断道の様子を見るというのは大事だ。これは、必ず中部横断道できますからね。40年経って1キロ帯になったんですけれども、やはり地元の強い要望とか熱意ってのは、国でも評価しますので、積極的にそういった面では、見通しがつけばそれに合わせて学校の方も、村民の方もルートが決まってくると、事業計画も違うし年数も違うし、開通する日にちも決まってくる。そうなるのとそれに合わせて学校もすぐやるとか、説得力あると思う。同じような話して怒られるけど。

津金課長 では、ふみ子さん。

高見澤ふみ子委員 今の子供たちって、アレルギーとかいろいろあるんで、できれば学校も、中部横断道の問題もあって大変だと思うんですけど、三校一貫で教育委員の皆さんがPTAの皆さんとも話し合ってきてるので、それなりの構想をしていただいた方が、村民の人たちも、あれ、どうなったのかな、作らないのかなといったことになっちゃてるんで、村長さんのそういう中部横断道に合わせてというのもありがたいんですけれども、やっぱり子供の成長って一年一年どんどん大きくなっていて、今の子供たちは新しい施設は使えないねって、親の人たちも諦めちゃっているのに、学校の給食とかアレルギーの子が多くて大変なんですけど。実際問題、中学校も部活が、それぞれの競技が川上の人たちと合併しました、チームの部活ができない状況になってきているので、今の話で10年後にできるんならいいけど、またいろいろ問題があってできなくなったら、また10年経ったら今生まれた子供たちも入れないだろうし、そうすると、せっかく小中一貫で学校やっていこう、新しい学校いいねってみんな目を輝かせて見学に行って、南牧にもこういう立派な学校ができればいいねって思ってたんですよ。段々、どんどんどんどん遠くに行っちゃうと、あの時は給食センターも新しいのにして、学校の先生たちの寮も新しくしてもらえるんだよねって、すごく楽しみにしてたんですよ。なんか宙ぶらりんになって、子供たちも、僕たちは新しい学校入れないんだよねって言われちゃうから、その辺は村長さん、村会議員の皆さんと話し合いを持っていただいて、早く着工になるよう是非お願いしたいです。そうすれば教育委員の私たちもみんなで話し合って、子供たちの勉強のシステムとか考えたりするので、ただ中部横断道のために合わせてなんてやってくと、私たちもどうすればいいのってなっちゃって。

大村村長 問題は、通学的手段ですね。小学校3年生ぐらいまでは、市場坂はすごいカーブが強い。

高見澤ふみ子委員 ぜひ着工に向けてみんなで頑張ってください。

津金課長 みち子さん、お願いします。

高見澤みち子委員 やっぱり、学校づくり委員会、建設検討委員会をやっていて、委員のみんなもかなりの回数を来てくださっていろんな意見を出してくださって、やっぱり小中一貫校が望ましいって答申が出て、私たち教育委員会としては、それを尊重したいとしてきて。それが小学校だけというのが前向きに検討して欲しいとおっしゃられましたけど、その話もどこからどう出たのか私たちも分からず。

大村村長 それはだって、ここから出たんじゃないっけ。

高見澤みち子委員 違います。

大村村長 じゃあ、どっかから出たっけ。

高見澤みち子委員 私たちはずっと、小中一貫でやって欲しいと言ってきたんですけれど。

大村村長 子どもたちが激減する中で、複式になっちゃうという話で、私は、学校の小中一貫校を進めながら、直感的にですよ、1年2年3年で建設なんて程遠いと思ったんで、だから未だに建設委員会ってのを作れない。本来だったらあのままあの後で場所が決まればすぐ建設委員会を作る。ところが、建設委員会というのを小中一貫校の場合でも作る、その委員会を中心に皆さん入るんだけど、いろんな議論していく、設計だとかいろんなお金の話から詰めていただいて、そう思ったんですけど。それよりも場所の話ということで、建設委員会に場所は投げかけるわけにいかないんで、非常に難しい問題だから。そういうことで村でやろうということに。その中で小学校の切実な問題が出てきた。だったら今の南小でという話になって。それまでには学校もすぐにかかってやるとか直すとか修繕をおそらく億くらいかけて、それがもう少し、そんなことで延び延びになっているんで、当初考えていた板橋の話が随分あるんだけど。

高見澤みち子委員 去年も会議で村長さんからそういうお話をされたじゃないですか。でも去年の議事録も公開されてないですね。

大村村長 それは公開しろと言えどもいいんだよな。

高見澤みち子委員 今回のも去年のも、議員の人たちに対しても関係者に対しても説明責任というものがあると思うんですよね。村長さんが今、中部横断道のことをおっしゃって、それも含め村としては、どういう態度でっていう説明する責任があると思う。

大村村長 それは去年だって、公開してもいいし。皆さんの真剣な意見も聞いてもらわなければいけないという意味では公開も。それは総務課長。

高見澤みち子委員 子供たちのこれからのことを考えることが、言ってみればこの村の未来を考えることでもあるわけじゃないですか。どういう学校を作って、どういう子供を育てて、この村をどうしたいかということですよ。総合ビジョンというか、村の問題としてこうだよということを村民に説明をしていただいて。

大村村長 ビジョンを、ここで作ってもらっていいですよ。皆さんの教育委員会としてのビジョン。皆さんのビジョンは別に作ってもらっていい。それと理事者の意見だとか、議会の意見だとか凝縮すればいいんだから。高見沢さんが言った意見の中で、こういう村だから早く作りなさいというのも意見だし、子供たちが待ってるんだという意見でもいいし、皆さんの意見をどんどん発信してもらって、こういう審議会で、オープンにできなかったのは村の落ち度だから、そういう意見をどんどん言ってもらえれば。これは八千穂の例なんですけれども、八千穂は、高見澤君、今総務課長かな、その人は、手弁当で朝昼晩、あの頃は佐々木定夫さんが佐久穂の町長やってて、教育委員会はもとより保護者、子供、議会、要するにあそこは6か所に小学校があって、それを一つにして中学校は2つあった。そして、が一つと作った。そういう熱意を持った、そんなこと言えばここにいる職員には申し訳ないんだけど、素晴らしいパワーを持った、いたから。そういう中で、私が一人歯を食いしばっていちいちこういうところで説明したり、言い訳しても、なかなかいろんな面で問題あるんですけど、そういう中で板橋でも海ノ口でも。あるいは平沢でも海尻でも。そういう皆さんだったり、意見の盛り上がりっていうのが無いと。どんなに、やっぱり話をして可能性を探るといっても、やあちょっと待ってくれっていうような話になるんだよ。それとやはり上だ下だっていう話が、どっかであると、なかなか一つにワーッとならない。そういう意味では私、そのままやっていくしかない。まだまだ職員がほんとに村民の財産生命守ってるわけだから、ほんとに職員がつまらねえようなことで話をするよりも、ほんとに裸一貫になってやらないとね、なかなか進まない。それについて、私が鬼になって、けつを叩けばいいんですけど、私もこの年でなかなか人に恨まれるのはもうってのもあって、そういうのは余談ですけど、そういう皆さんと、熱烈な話に持っていけないとね。なかには村長一人で決めろなんて簡単なこと言うのもいるけど、なかなかねえ、じゃあここんどこって指さすわけにはいかないですよ。そういう意味で皆さんの意見を尊重して聞いて、今後また積極的に取り組むということで。

高見澤みち子委員 もう一ついいですか。いま全国的なスクールギガ構想、村でも一人一台パソコンを用意していただいております。今後いろいろ子供たちの教育も変わっていくと思うんですよね。それも含め早めに、ほんとに村長さんが、ここでつて言えば決まる話だと思うんです。みんなそう思っております。

大村村長 あ、そう。

高見澤みち子委員 ぜひご決断をお願いしたいと心から思っています。それで、いい教育をって言われれば私たちも動きますので、よろしくお願いします。

大村村長 なかなかねえ、まあそのつもりでやってはいるんですけども。いずれにしても今日の、この会議の中で、無駄にすることなく、教育長とまた、職員といろいろと勉強させていただいて、取り組んでいきたいなと思っています。では総務課長。

津金課長 時間も迫ってまいりましたので、意見も出尽くしたようであれば、それでは教育長からお願いします。

高見澤教育長 はい。教育委員の意見を聞いていただきまして、村長さんにはありがとうございました。最後に報告がてらお願いがあります。来年度は教育委員会に南佐久郡の教育委員会の協議会の事務局が回って来ます。実は昨日、南佐久郡の教育委員会があって、佐久穂の役場で開催されまして、高見澤一男さんが会長で、引き受けていただきまして挨拶していただきました。1年間、一男さんには職務代理に加えて南佐久郡の会長としてお世話になることを報告させていただきます。それに加えまして就学支援の協議会も2年間、議会で、南牧村で、3月議会に提案させていただくんですが、議会で承認していただきますと、就学支援の事務局も南牧村に回ってきます。それにつきましては2年間ですが、南佐久郡のそれぞれの子供たちの公平な教育環境のということで、南牧村が事務局でやりますので、これにつきましても村の協力をお願いします。南佐久郡の教育長会も回ってきてまして、南佐久郡の教育長としては私が務めさせていただきますけれど、長野県の全体の教育委員会の監事も受けなければならない状態になっていまして、こちらもぜひご理解をいただきまして、長野市の方に年に5回くらい行かなくちゃいけないといわれてますので、そちらもお願いします。最後にお願いなんですけど、まだまだコロナ禍が続くと思います。その中で昨年を振り返ってみますと、教育委員会だけでは、いろいろやっていくうえで、産業建設課の長澤さんとか住民課のいろんな理解、あと総務課の方たち、あと保育園の皆さんのPTAの関係とか縦割りではなくて横のつながりで村全体で教育委員会をバックアップしていただきまして、やっとやって来れたと思います。これからも教育委員会に任せるというだけでなく役場の中が横のつながり、横串を刺して、みんなで南牧の教育環境を良くしていくように理解と協力をお願いいたします。それと教育委員会に対してアドバイスをお願いいたします。今日はありがとうございました。

津金課長 ありがとうございました。

大村村長 ちょっと最後に。教育長も言ったけど、非常に南牧ってのは海尻から平沢まで長い。これを見てると、なかなかこれを一つにぐっとまとめるのが難問中の難問なんです。やはりこの1期に本当に村が一つになるには、海尻だけのことを考えてもいけないし、平沢から、野辺山から、板橋から全部見て、職員もそうだと思うけど、全体を見て物事を言う、皆さんもそうです、こう立場になっても全体を見てこういう意見が。さきほど中部横断道言ってますけど、インターがここと原、どこにできるかというのがるんです。野辺山の最高地点なのか、あるいは板橋まで。あるいは市場まで。これによってもね、学校の場所がだいぶ変わってきちゃう。そういう意味でいろんな、愚痴ばっか言って申し訳ないんですけど、状況を見ながら皆さんの思いを村に対する、実現していくかということ。今後とも協力いただいて取り組んでいきます。よろしくお願いします。今日は貴重な時間をありがとうございました。

◎閉会

津金課長 それでは、大変長時間にわたりまして、いろんなご議論いただきましてありがとうございました。また何かありましたらこの会を開いてと考えておりますので、今日は時

間がありませんので、これで閉めさせていただきますけれども、たいへんお疲れさまでした。

閉会 午前１１時１５分
